月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第 40 号

発行　：レムナントキリスト教会

価格　：１００円（送料込みで２００円）

〔目次〕

◎　聖書からのメッセージ：「種類にしたがって創造する」　エレミヤ
◎　聖書の中の人々「アブラハム」
◎　イエス・キリストに出会う「宗教指導者パリサイ人とイエス」
◎　キリストを信じた体験談「空港での待ち合わせ 」by S
◎　聖書の教えのエッセンス
◎　聖書に関する有名人のことば：　アブラハム・リンカーン

＜聖書からのメッセージ　＞

「種類にしたがって創造する」
by エレミヤ

創世記1:24 ついで神は、「地は、その種類にしたがって、生き物、家畜や、はうもの、その種類にしたがって野の獣を生ぜよ。」と仰せられた。するとそのようになった。

1:25 神は、その種類にしたがって野の獣、その種類にしたがって家畜、その種類にしたがって地のすべてのはうものを造られた。神は見て、それをよしとされた。

本日は「種類に従って創造する」という題でメッセージしたいと思います。動物や家畜がどのように生まれたか、ということに関しては、聖書の語る説明が現実を反映し、合理的である。進化論の語る説明は逆に事実と異なり、矛盾したものである、ということを見ていきたいと思うのです。具体的には、神の定めた動物や家畜の「種類」には大きな意味合いがある、ということを見ていきたいと思います。

この世にある動物や家畜はどのようにして生まれたのでしょうか？私たちは学校で習う進化論に従い、動物はみな、下等な生物から進化したと、習っています。ところでそれは本当なのでしょうか？そのようなことを今回は考えてみたいと思います。

＜聖書は動物は「種類」にしたがって作られたことを語る＞

私たちは聖書の中に私たちの持つ問題や疑問に関しての答えがある、と思っています。その聖書は動物や家畜が生まれた、誕生したそのいきさつに関して、上記のテキストの様な記述をしています。すなわち、家畜や野の獣などはみな、「種類にしたがって」創造された、ということを語ります。上記テキストの２つの節のなかでは、「種類にしたがって」ということばが、４回も使われています。ですので、家畜などの創造に関して、この

「種類にしたがって創造する」　by エレミヤ

「種類」ということが何かとても大事なことのように理解できます。このことを考えてみしょう。種類とは何か、というとすなわち、猫だとか犬だとか、兎というような動物の種類です。聖書の記述に従うなら、神が動物を創造する時、その動物の種類ということに特に配慮し、この種類の区分を考慮しながら創造した、そのように理解できます。

＜種の壁＞

ですので、犬だとか、猫だとか動物の種類、ということは大事な区分である、そう理解できるのです。別の言い方をいうなら、各動物の種類の間にはいわば、「種の壁」というような絶対的な壁が存在し、その壁を越えて別の種類に変化することは不可能である、そのように聖書は語っているようにさえ思えます。

＜進化論は種類の区分は簡単に超えられると主張する＞

さて、このように聖書は動物の種類の区分、ということを大いに強調するのですが、進化論の考え方はそうではありません。進化論の考え方は、動物の種類の区分、さらに魚と動物の種類の区分など楽々と越えていける、という考え方に立つ理論なのです。進化論は、進化の過程は、魚類→両生類（蛙など）→爬虫類（トカゲなど)→哺乳類（豚など）の順番であると語ります。すなわち、それぞれの種類の壁は越えることができる、進化していく、と主張するのです。

＜どちらが正しいのか？＞

さて、このように動物などの種類の区分に関して聖書の主張と、進化論の主張は全くことなっています。聖書は神がその動物や、獣、魚などの種類の区分を尊重して創造した、すなわち、種の壁は越えられないことを主張しています。かたや進化論はそんな種類の壁など存在しない、壁など乗り越えて進化する、と主張しているのです。この２つの主張のうち、どちらが正しいのでしょうか？

異なった種類の動物の交配に関しては過去色々実験されています。ですので異なった種類の動物どうしが交配して子孫を残せるか、という疑問に関してはすでに答えが出てているのです。そしてその結論を言うなら、異なった種類の動物同士が交配しても子孫は残らない、すなわち「種の壁」を乗り越えることはできない、ということが結論になります。聖書のいうように、神の定めた種類の壁、種の壁は、絶対的に存在するのです。そもそも猫と犬など、大きく種類の異なる動物同士を交配させようとしても子供ができません。そもそも受精しないのです。ですので、聖書のいうとおり、家畜も獣もその種類に従って創造された、ということが正しく、猫の種類は神が創造された時から、今に至るまで、永遠に猫なのです。また、犬の種類は同じく神の創造以来現在に至るまで、ずっと犬なのです。猫が他の種類の動物、たとえば、猿とか犬とかと交配して別の動物が生まれたこともないし、その可能性もないのです。なぜなら、そのように神がそれぞれの動物を創造したからです。厳密にいえば、近い種同士では例外的にライオンとヒョウとの（ともにネコ科）間で交配し、子供が生まれることがあります。それでは、種の壁は崩されたか、というとそうではありません。その時生まれたこどもはレオポンと呼ばれますがレオポンには生殖能力がありません。したがって一代限りで終わり、子孫など残すことができません。すなわち、結論として、種の壁は厳然として存在するのです。種の壁を乗り越えて動物が進化していく、という考えは、空論に過ぎず、実際はどのように交配を繰り返しても種の壁を乗り越えることはできないのです。

＜突然変異では進化しない＞

「種類にしたがって創造する」　by エレミヤ

遺伝法則を超えた現象として突然変異が進化をもたらしたと主張する学者もいますが、非合理的な論理です。何故なら、実際は遺伝子の突然変異は全て進化ではなく、退化をもたらします。たとえば、４６個の染色体を持つ人間に突然変異が起きると全て病気になるのです、たとえば、４７個の染色体となれば、ダウン症の子となります。

＜偽りをもって真理をはばむ＞

聖書は神の創造のわざを認めようとも、受け入れようともしない人々に関して以下の様に述べています。

ロマ 1:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。

ここでは、「不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されて」いることが語られています。家畜や獣の創造に関しては、３０００年以上前に書かれた聖書の記述、「種類にしたがって」との記述が真理であり、この記述がポイントです。そして、犬も猫も神の創造の始めから、まったく同じ種類の中で、犬は犬を生み、猫は猫を生み、子孫が続いてきた、ということが真理なのです。進化論のいう「種類を超えた進化」などは、まったく空論です。進化論者ダーウインは種と種のあいだの「中間種」が過去の化石から発掘するはずだ、といいましたがそんなものは現在まで何ひとつ出てこない、ということが現実なのです。この進化論のような偽りをもって神の真理をはばんでいる人々に対して、神の怒りが天から啓示されている、と聖書は語るのです。このような人々に関して聖書は以下の様にも述べています。

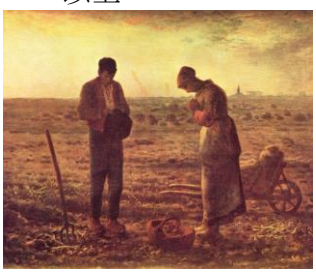
ロマ1:19 なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

神は確かに目に見えない方ですが、しかし、その神の性質や力は、被造物すなわち、神の作品である動物や植物、自然などを通してはっきりと認められると聖書は語ります。このことは事実です。人間の世界でも、私たちは会ったことのない画家でもその描いた絵を見る時、その画家の人となりや力量まで推察することができます。

たとえば、私はミレーの絵を見る時、彼の描いた種まく人や、晩鐘、落穂ひろいなどの絵を見る時、まだ会った事のない彼の性質やその画家としての力量がわかるような気がします。彼のクリスチャンとしての信仰も彼の絵を通して、大いに理解できるような気がします。同じ意味あいで神は確かに目に見えない方なのですが、神の力量やそのデザインのセンスや、性質はその神の創造した動物や家畜、植物などを通して明らかに認められ、また、悟ることができます。動かないミレーの絵を見てもある程度その絵を描いた作者のことはわかるものです。誰もミレーのすぐれた絵が偶然にできたなどとは思わないものですさて、そうではあっても絵は絵に過ぎないともいえます。絵どころか実際の動物：動いて、生きて考える動物や、獣が偶然にできるはずがあるでしょうか？ですので、それらを知りながらあえて神の存在を否定する人々には弁解の余地などない、と聖書は語るのです。

―以上―



ミレー「晩鐘」

聖書の中の人々「アブラハム」

アブラハムはイスラエルの民の父祖であり、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教徒にとって非常に重要な存在です。キリスト教徒にとってアブラハムは信仰的な父祖であり、クリスチャンは信仰的なアブラハムの子孫なのです。アブラハムは箱舟を作ったノアの息子セムの子孫で、ノアから10代目に当たり、旧約聖書の創世記12章から25章にアブラハムのことが詳しく記されています。元名はアブラムでしたが、創世記17節において、神様が、アブラハム(「多くの国民の父」の意)と名前を変えられました。アブラハムの父テラ一族は、ユーフラテス川下流カルデアの大都市ウルから、シリア北部の町ハランに移り住んでいました。しかし、神がアブラハムに、生まれ故郷と父の家を捨てて神が示す約束の地カナンに行くように命じられます。

創世記１２：１～２主はアブラムに仰せられた「あなたは、あなたの生まれた故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地に行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福しあなたの名をおおいなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。～」

アブラハムは忠実に神の命令に従い、妻のサラと甥のロトとともにハランの町を離れ、カナンの地(地中海とヨルダン川、死海に囲まれた地域)に移ります。しかし神が示した地には、多くの先住の民がおり、アブラハムは遊牧民として苦難の寄留生活を送ります。アブラハムは苦難の中でも神への信頼を強く持ち続け、神様の守りの中で生活をします。また、アブラハムの妻サラは不妊で神様はアブラハムとサラに子供を与えると約束されます。2人はアブラハムが86歳の時、エジプト人の奴隷ハガルをそばめとし、イシュマエルが生まれます。(このイシュマエルが現在のアラブ人の先祖と考えられています。)

その後、神様によりアブラハム99歳サラ90歳の時、約束の子であるイサクが生まれ、このイサクがアブラハムの跡継ぎとなります。

創世記22章では、神様が、モリヤ山で約束の子イサクを燔祭にささげよと命じられます。神様がアブラハムに大きな試練を与え、彼の信仰を試されたのです。この試みの中でも、アブラハムは神様への信頼をもち続けます。彼は息子イサクによって多くの国民の父となるという神の約束を信じ、息子イサクを燔祭のささげ物にしようとします。まさにその時、神様がアブラハムを止め、イサクの代わりの燔祭の羊を与えられます。そしてアブラハムを祝福されました。

この出来事について新約聖書ヘブル人の手紙11章で、次のように書かれています。

ヘブル１１：１７～１９「信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです。神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる」と言われたのですが、「彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。～」

このようなアブラハムの神様に対する深い信頼と信仰を、主は喜ばれました。そしてアブラハムは息子イサクによって、多くの子孫が生まれ、彼は信仰の父と呼ばれるようになったのです。

—以上—

アブラハムとイサク

イエス・キリストに出会う「宗教指導者パリサイ人とイエス」

イエス・キリストは今から約2000年前、ユダヤ総督であるポンテオ・ピラトによって十字架刑になりました。しかしピラトは無実のイエスを死刑にしたくなかったのです。そのピラトに、イエスを死刑にするよう強く働きかけたのはユダヤの宗教指導者であるパリサイ人と律法学者でした。彼らは何としてもイエスを殺したかったのです。そしてついに彼らはイエスを捕え尋問します。マタイ２６：５９では**「さて、祭司長たちと、全議会はイエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めていた。」**とあります。大祭司がイエスに神の御子キリストかと問い、イエスは「わたしがそれです。」と答えられます。こうしてイエスは冒涜罪で死刑と決められたのです。なぜ宗教指導者たちは、こうまでイエス殺そうと画策したのでしょう。

ローマの圧政に苦しむ当時のユダヤ人は、聖書に預言された神の御子キリストが現れることを待ち望んでいました。御子イエスは、人々に神の国の到来を告げ、多くの奇跡を行います。しかし、パリサイ人達はイエスをナザレの田舎者と軽んじます。そして自分達こそ知者であると高ぶっていた為、真の神であるイエスと出会いながら、悟ることができませんでした。彼らは外面的には、信仰深く立派に見えましたが、イエスは彼らの心の内を御存知でした。マタイ23章でイエスは**「わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人」と何度も言われ、「外側は人に正しく見えても内側は偽善と不法でいっぱいです。」**と彼らの内面を痛烈に評しています。

民衆に人気のイエスは彼らにとって妬ましく目障りでした。ヨハネ１１：４８**「もしあの人をこのまま放っておくなら、すべての人があの人を信じるようになる。そうなると、ローマ人がやって来て、我々の土地も国民も奪い取ることになる。」**とあります。パリサイ人達はイエスによって、自分たちの高い立場が危うくなることを恐れたのです。神のことを教える教師でありながら、自分たちの利得の方が大事だったのです。彼らは十字架上のイエスに対しあざけります。マタイ２７：４２～４３**「かれは他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救って頂くがいい。『わたしが神の子だ』といっているのだから」**とあります。

彼らは自分たちが、神に敵対していることを悟らず、それが深刻な事態であるかを全く理解していませんでした。どんなにこの世界で成功して自分の思い通りに過ごしたとしても、神に逆らった生き方をしているなら、その最後は滅びです。死後、人は必ず神の前に立ち、各々の行いに応じ裁かれます。しかし、イエスを救い主として受け入れた人は裁かれず永遠のいのちを受けます。主イエスに敵対し続けたパリサイ人達には、死後どのような末路が待ち受けているのでしょう。

ＡＤ70年に、ローマ帝国に反旗を翻したエルサレムはローマ軍隊により完全に破壊されました。エルサレムの町は完全に包囲され、中にいた人々は全滅したのです。イエスの十字架刑からわずか30年程しかたっていませんでした。

パリサイ人とイエス

キリストを信じた体験談『空港での待ち合わせ 』by S

ある牧師さんから聞いたお話なのですが・・・今から大分前のことで、携帯電話が無かった頃のことです。当時、その牧師さんは宣教活動のためにひとりで海外へ向かったそうです。たしか片言の英語しか話せない状態だったと思うのですが、現地で知り合いの人と待ち合わせをすることになっていました。

そして何時間かのフライトを経て、ようやく目的地に着いてホッとしながらも、すぐに待ち合わせ場所へ向かったそうです。

「たしかここでいいはず・・・」と立ち止まり、しかし知人はまだ来ていなかったそうです。待ち合わせ時間になり、それから５分、１０分が過ぎ、そして両手に荷物を持ちながらも早３０分が経ち、だんだんと不安になってきたそうです。それはそうですよね。まったく初めての場所で、しかも外国なのですから。国内の知っている地域ですら、いつになっても相手の人が来ないと不安になりますよね～。しかも今と違って、携帯電話もメールも無い時代なので余計にそうだったと思います。放送で呼び出すといっても、そこまでの英会話能力も無いし・・・と、思いつつ、さらに待ち続けていたそうです。

そんな中、「そうだ、神さまに祈ってみよう！そうしたら何とかなるかも知れない！」と気持ちを切り替えて、「なんとか会うことができますように」とひたすら祈っていたそうです。

すると、ほどなくして知人の方が走りながら、そして「遅くなって申し訳ありません」と、牧師さんのところに来られて、無事会うことができたそうです。このことを通して、神さまに信頼して良かった、そして神さまが助けてくださった～、ということを言われていました。

このお話は、私がクリスチャンになって間もない時に聞いたことだったのですが、のちの信仰生活に大いに影響を与えるものとなりました。そしてこういったパターンではないにしろ、何かピンチの時とかにふと、このことを思い起こしてはお祈りすることがあるのですが、そのたびに神さまが助けてくださり、その牧師さんのお話は真実だなぁとしみじみ痛感させられるものがありました。

もし、何か究極のことが起きたり、窮地に立たされてしまった～、なんてことがありましたら、実践する価値があると思いますのでよろしければ、ぜひおすすめいたします。

124:8 私たちの助けは、天地を造られた主の御名にある。（旧約聖書〔新改訳〕:詩篇124篇8節）

まちあいしつ

聖書の教えのエッセンス

＜全ての人の人生に2つの定まったことがあります＞

　それは、どのような人も必ず死ぬこと、さらに死後誰でも必ず神の前で裁き（裁判）の座につくことです。裁判の結果、ある人は永遠の命を受け、ある人は火の池に投げ込まれます。

ヘブル　9:27　そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばき（裁判）を受けることが定まっているように、

私たちはそのさばき（裁判）を通して、今の人生で犯したあらゆる罪に関して申し開きを行う必要があります。

＜死後多くの人が火の池に投げ込まれます。自分の人生で犯した全ての罪を火の池の罰で償うようになります＞

黙示録　20:15　いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

マタイ7:13　狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからはいって行く者が多いのです。

　私たちはその日、自分の人生で犯したあらゆる罪や、不正、嘘、意地悪、悪口、陰口、非難、不満の罪の代価を全て火の池の罰で払うようになります。

＜神は私たちが滅びに至らないため、救いの道を用意しておられます＞

それは、私たちの罪の身代わりとしてキリストが十字架で死なれたという方法です。聖書によれば、キリストは神のひとり子（たった一人の子供の意味）なのですが、神はその命を犠牲にして私たちに救いの道を用意してくださった、ということなのです。以下のことばの通りです。

ロマ4:25　主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

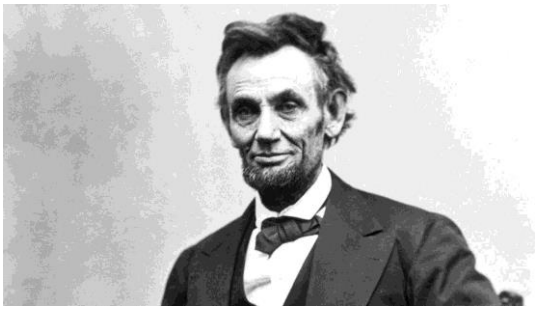
ヨハネ5:24　まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。

＜キリストを信じるものは死後、罪のために罰を受けることはない＞

ヨハネ　3:18　御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。

ここに書かれているように、神の御子であるキリストを信じるものはさばかれず、とがめられず、死後火の池の罰に入ることもありません。キリストが私たちの罪の身代わりに死なれ、罰をうけられたからです。今神に祈り、このキリストを信じ、心で受入れましょう。神は聞いてくださいます。

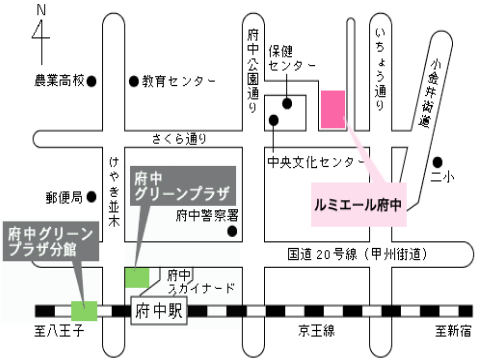
聖書に関する有名人のことば：
アブラハム・リンカーン（合衆国16代大統領）



私は聖書は神が人に与えた最良の贈り物である、と考える。世の救い主の全ての良いものはこの本を通して、私たちに伝達される。

＜お知らせコーナー＞
●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30－12:30,午後 14:00－16:00
場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042－364－2327, mail:truth216@nifty.com



★　教会のHPもあります。
ご興味のある方は、"Yahoo！Japan"で、「府中　レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。
☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ＆ミルトス
http://remnantnotudoi.jimdo.com/
☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家
http://87494333.at.webry.info/
☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/
☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風
http://whattopics.at.webry.info/